

## 2021年度 Seinan Millennial Project 成果報告書

取組名称	SEINAN VisMoot
取組責任者	森山夏琳
取組担当者	<p>中原萌、中嶋鋭延          河野琴理、森山夏琳          松原 菜月、稲田 朱里          永江 華子、峰 結愛          中島悠人、砂坂 菜吏          大平 樹梨、尾崎 央虎          崎尾美結、橋本歩佳          角田涼香、坂口典彌          宮内輝、徳永彩乃          片山 実咲、荒木優葵子          深澤舞雪、松岡亜門</p>



写

真

## 1. 取組みの概要、および活動内容

### <概要>

5W1H (who, where, when, what, why, how) を意識し、200~300 字程度で記入してください。

模擬国際商事仲裁大会(VisMoot)のウィーン大会・香港大会・日本大会の出場に向けて活動を行う。所属メンバーは法学部法律学科・国際関係法学科の1-4年生で、金曜日5限に全メンバーと釜谷真史先生、弁護士の先生方をお招きして会合を行っている。大会問題（英語で50ページ程度）を読解し、紛争当事者の会社を弁護するための法的主張を話し合い英語で作成、最後に大会で口頭弁論を行う。

### <活動内容>

経費の有無に関わらず、本取組の活動内容を時系列で記入してください。

#### 【前期】

- 新メンバーを加え昨年度の大会用の問題を読解
- 仲裁や準拠法、CISG などについて学ぶ
- 海外の優秀校の準備書面を読解・法的主張の作成
- 口頭弁論(日・英)の練習・チーム内試合
- オープンキャンパスにて口頭弁論(日・英)のデモンストレーション

#### 【後期】

- VisMoot 本部から今年度大会の問題が公開・読解
- メンバー同士で議論し、西南 VisMoot チームとしての法的主張を作成
- 準備書面を作成・提出
- 口頭弁論の準備・練習・大会出場メンバーの選出
- 公開実戦練習を開催し外部の弁護士の先生方からの指導、観戦する高校生への西南法学部の紹介
- 日本大会出場（3月13日に終了）
- 香港大会、ウィーン大会に出場予定

## 2. 得られた成果

### <申請当初の目的・計画の達成度>

申請書の「3. 達成目標」と照らして、どの程度の達成度であったかを記入してください。

達成目標は、日本大会日本語の部 5 連覇、英語の部優勝、海外大会予選ラウンド突破であった。結果は、日本大会では日本語の部 3 位入賞という結果に終わった。現在では、海外大会予選突破に向けて練習を重ねている。

### <優れた成果があがった点>

活動を通して特に成果があがったと感じた点について記入してください。

日本大会 5 連覇という大きな目標はかなわなかったが、大会に向けた準備期間では昨年までとは違う新たな取り組みをスタートした。世界各国で行われているプレ大会に出場することや、海外大学との練習試合を毎日のように行い、その過程で実践的な英語コミュニケーションの経験を積んでいることだ。

外国の大学との練習試合では、各大学の Vis チームが持つ SNS アカウントに英語で連絡をとりスケジュールを調整する。その際は現地と日本の時差を考慮しなければならず、どちらかのチームが深夜や早朝に参加することになる場合もある。また、海外チームは調整内容に問題が無い場合には返信をしないことが肯定の合図であることも多いのだが、日本人の私たち西南チームはそれを知らず、相手からの返信がなかなか返ってこないと焦ることもあった。やっと確定した練習試合も、相手チームの国で竜巻が起こってネット環境がすぐれず中止になったりもし、紆余曲折が多い。

このような人間としての英語コミュニケーションの難しさの壁は、試合で行う法的主張以前の話であり、この壁に当たりながら、メンバーは英語で話すことのハードルを少しずつ乗り越えている。前期の活動当初はメンバー同士で英語で話すのもぎこちなかったメンバーたちが、海外チームの大学生と「今日はこのような時間をありがとう」「日本はそろそろ春が近づいてきていますがそちらの天気はどうか？」などの会話を懸命に絞り出し、自分の英語が相手に通じるという小さな成功体験を少しずつ積んでいる。

この実践的な英語コミュニケーション経験、またオンラインでのコミュニケーションスキルは、必ずしも弁護士や国際会計士などの進路を選ばなくとも、どんな進路に進んだとしても必要になる能力であると考え。この人間力を総合的に上げる経験が VisMoot 活動の醍醐味のひとつでもある。

## 3. その他

実際に取り組んでみた感想や今後取り組んでいきたいことなど、自由に記入してください。

コロナ禍 2 年目のチーム活動は、オンライン生活に慣れてきつつも、率直にはいつまでオンライン生活が続くのだろうかという先の見えない不安と隣り合わせだった。隙間時間で簡単に繋がれるオンライン活動の利便性はありつつも、やはり対面で自由に議論を戦わせるスピード感、大会当日も共に試合に出場するメンバーがすぐ隣に座っている安心感はオンラインでは再現できないものであった。来年度こそは、京都での日本大会、また香港・ウィーンに直接行き大会に参加したい。

また、今年度、ミレニアルプロジェクトのご支援のお陰で開催できた公開実戦練習に参加してくれた県内外の高校生が、SEINAN VisMoot に興味があり西南法学部の受験を検討していると話してくれた。学外からも応援と関心をいただけていることに驚きと喜びばかりだが、善良な影響力を持ち長く続くチームとなれるよう、そして西南法学部の名物と呼んでもらえるようなチームになれるように、これからも努力を重ねたい。